

## 企業理念をふまえた技術の展開

取締役社長 山本 茂生

私はかつて長らく、「社会の中での、企業の存在価値は何だろうか」と、疑問に思っておりました。

営利企業にいる私たちは、絶えず、受注・生産・売上・利益という数字を目標に掲げ、それに向かって努力しています。たしかに、これらの目標を達成した時には、大きな喜びを感じます。

しかし、「これらの目標は何のためにあるのか」「企業はこれらの目標を達成するだけでいいのだろうか」「その先にある目的は何だろうか」という問いを投げかけた時、その答えはなかなか容易には出てきません。

私は、「その答えが出てきた時は、それこそが企業の存在価値なのだろう」と考えました。

そして考えついたところが、「人」であります。

あらゆるアプローチから、たとえば「なぜ利益をあげなければならないのだろうか」「なぜ技術を開発しなければならないのだろうか」「なぜ競争に勝たなければならないのだろうか」「なぜ企業は存続し発展しなければならないのだろうか」と、企業人であれば一見あたりまえに思えるようなことでも、「それはなぜか」「それは何のためか」の問いを繰り返した時、いつも最後には「人」に行きつきました。

つまり、「それは人(人間)の幸せのためにあるべきだ」と。

そして、それ以上の新たな問いは考えられませんでした。

一昨年、当社社員から寄せられた二百数十編もの「懸賞論文」に接する機会があり、多くの人たちはどう考えているだろうかという目でも読みました。さらに、企業理念検討委員会のメンバーを始め、社内のいろいろな方々にもこの問題を考えていただきました。

そして、これらみなさんが希望される、山洋電気のありようとしての基本的な方向が出された時、私は「信じていた精神がここにある。これこそ私たちが目指すべき方向だ。」と、深く感動いたしました。

私たち山洋電気は、  
全ての人々の幸せをめざし  
人々とともに夢を実現します。

すなわち、企業の存在価値は人(人間)のためにあるべきであり、企業活動の全ても人のためにあるべきであるということです。

こう考えれば、当然に当社の技術の目指す方向も明らかです。

すなわち、人間の幸せのための技術です。

山洋電気は70年間にわたって発電装置や電動回転機、駆動装置を手がけてきましたから、人間の幸せのためにこれらの技術の蓄積が活かせることは何だろうかと考えました。

このように考えれば、あとは必然です。

### 1 地球環境を守るための技術

## 2 人の健康と安全を守るための技術

## 3 新しいエネルギーの活用と省エネルギーのための技術

新しい技術を開発しようとする時、その目的がこれらの方向のいずれかに合致しているかどうかを確認することによって、これからの人間社会にきっと大きな貢献をもたらすことでしょう。

さらに私たちは、製品のための技術だけでなく、会社そのものがこれらの方向に向かうように進むべきであります。

今、山洋電気の技術に期待される使命と、それを支える理念の価値は、まことに大きいと言えます。

みなさまとともに力を合わせてまいりたいと思います。

---

SANYO DENKI

**Technical Report No.3**

May. 1997